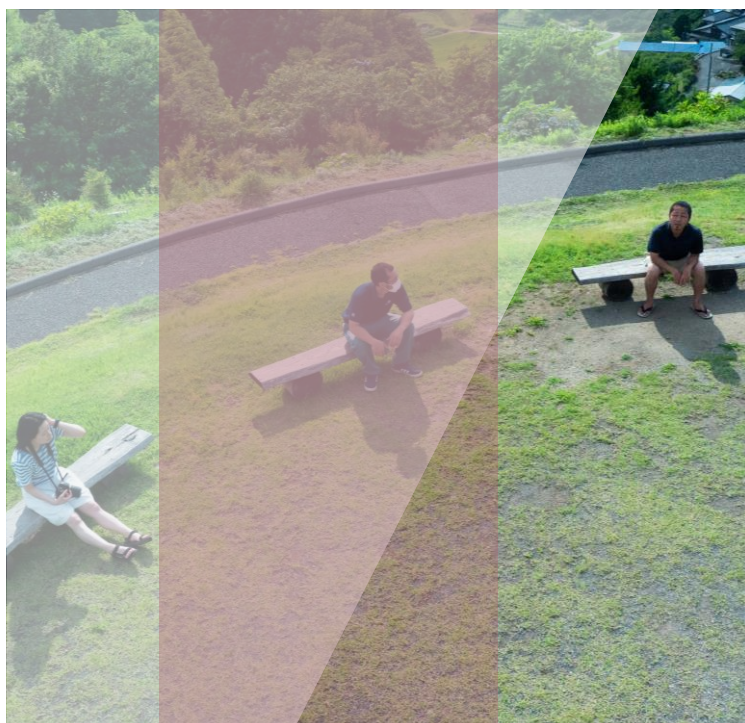


添付資料No.2



長野県 地域おこし協力隊 令和3年度 成果報告会



2022年3月22日
長野県地域おこし協力隊
杉山豊



自己紹介

長野県地域おこし協力隊
杉山 豊

一般社団法人ローカルイノベーションイニシアチブ
代表理事
waratte 代表

2017/12 豊丘村地域おこし協力隊 着任
2020/2 waratte 設立
2020/3 豊丘村地域おこし協力隊 卒隊
2020/4 長野県地域おこし協力隊 着任
2022/2 一般社団法人ローカルイノベーションイニシアチブ 設立



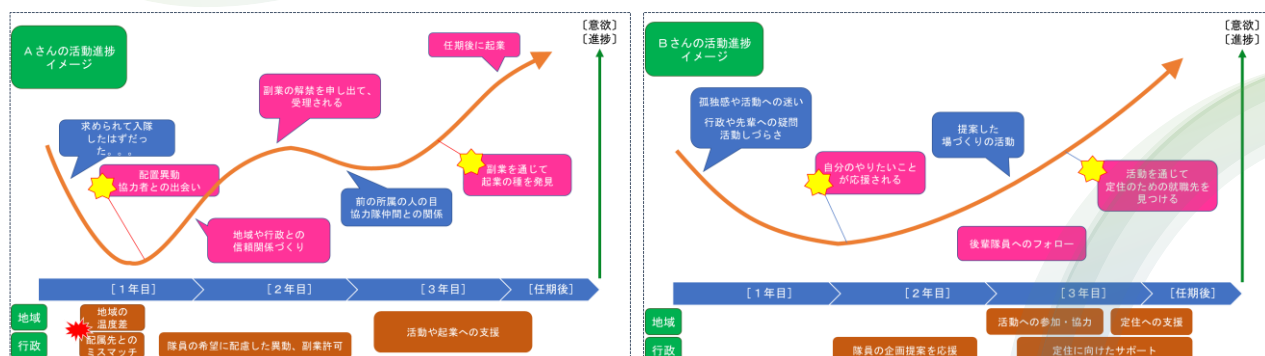
独自のカウンセラー視点から協力隊と行政、
地域と移住者のマッチングの在り方を模索して
いる。2022年2月に設立した一般社団法人
ローカルイノベーションイニシアチブで地域づくり
のための中間支援を本格始動



隊員の活動プロセス分析



(活動プロセス例)



《協力隊が押さえるべき五つのポイント》

1. 信頼関係の構築

行政や地域との信頼関係や繋がりづくりのためにしっかり時間をかけて努力することが大切です。時には、自分のやりたいことを横においてでも、この時間を創ることでその後の活動の基盤をつくれる可能性が広がるはずです。

2. 協力者との出会い

キーパーソンとなる地域住民や行政職員などとの出会いによって、しっかりと地固めや活動の幅の拡大ができます。まずはしっかりと自分の周囲の観察からはじめましょう。

3. 行政担当者の協力

行政職員の協力はとても大きな支えになります。まずは担当者としてしっかり向き合うことが重要です。自分の主張ばかりでなく相手を理解する努力をしましょう。

《協力隊が押さえるべき五つのポイント》

4. 隊員自身の目標設計

いずれかの段階で、自分自身のゴールが明確になることで、そこに向かって先の展望をしっかりと見据えて、歩みを進めることができます。目的が見つからない人は一度立ち止まって振り返る機会をしっかりと作りましょう。

5. 自分のスキルを活かしたチャレンジ

隊員活動や任期後に向けた取組の中で、自分のスキルや個性を活かし、できることにチャレンジし、様々な成果を生み出すことで、地域や行政の見方や感じ方に大きな影響を与えている。自分自身のできることをしっかりと整理してアピールしましょう。

《協力隊が押さえるべきポイント》

行政・地域
との連携

信頼関係
の構築

協力者との
出会い

行政
担当者との
協力

コミュニケーション

隊員自身の
意識や能力

隊員自身の
目標設定

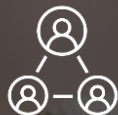
自分の
スキルを活
かす



令和3年度 長野県地域おこし協力隊 調査報告

協力隊・行政・地域それぞれの視点から見る
地域おこし協力隊の在り方

令和3年度の調査について



昨年実施した調査では協力隊の成功事例をお伝えしましたが、今回の調査ではさらに行政・地域の目線を取り入れ、市町村全体でよい流れが作れている市町村をピックアップし、それぞれの地域のポイントを共有したいと思います。



長野県地域振興局と協働して行った協力隊アンケート調査をもとに、今回の調査結果を紐解き、協力隊支援に必要な要素について分析していきます。



カウンセリングに用いる視点から優良事例となり得る市町村の分析を行い、これからの協力隊採用や伴走に有効となる点について共有したいと思います。

事例 1 市町村A

町全体で協力隊を育てる動き



市町村Aの仕組みのポイント

行政が地域を支援

- 行政が地域を支援することで協力隊を育てる土壌ができている
- 様々な分野の仕事を地域事業者へ委託

制度設計の工夫

- 協力隊により自由な動きをさせるための制度設計
- 職員と同じデスクではなく、協力隊専用の部屋を設置

つなぎ役の存在

- 行政、地域、協力隊をつなぐ役割の人材がいる（通訳者）

事例 2 市町村B

行政の制度設計が協力隊の活動に反映

市町村B

制度設計強化型

行政

行政とつながりのある団体を活用
契約自体は協力隊との直接契約
制度設計に特に力を入れている

地域
受入団体 1

地域
受入団体 2

地域
受入団体 3

協力隊A

協力隊B

協力隊C・D

取材型の募集広告を実施（コンセプトをはっきり）
採用面接では関わるスタッフの意見もヒアリングして決定
個人で事業展開できる可能性がある人を選抜

市町村Bの仕組みのポイント

協力隊の制度設計の工夫

- 年度の初めに事業計画を隊員自身が提出して活動費を決める
- 活動費は補助金として隊員自身が管理している

募集段階の入り口設計

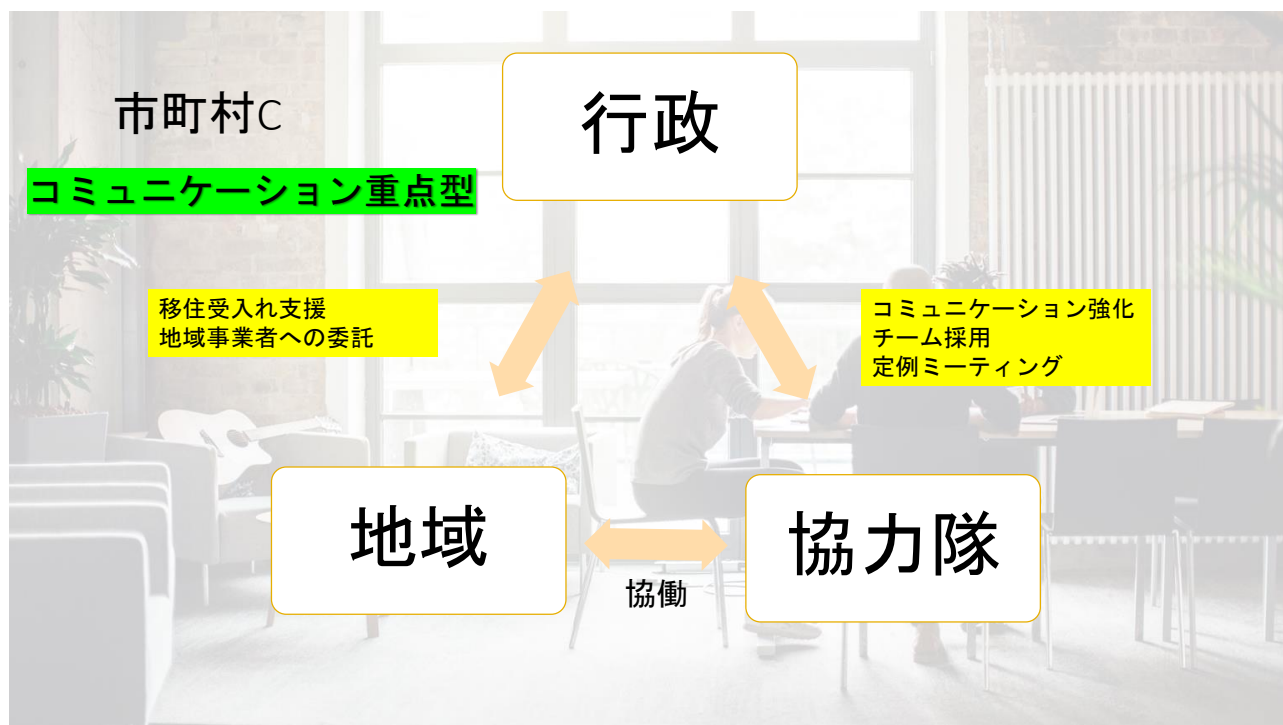
- 協力隊の必要性について関係者でしっかり話し合いを重ねる
- 募集広告を取材型にして必要な人物像を明確化

採用面接での選考の徹底

- 能力や経歴だけでなく、一緒に働く仲間との相性も確認

事例3 市町村C

行政担当者の姿勢が協力隊にもたらす影響



市町村Cの仕組みのポイント

ひとりの人生を預かるという姿勢

- 担当者が採用した隊員の未来と一緒に考えられる

協力隊のチーム採用

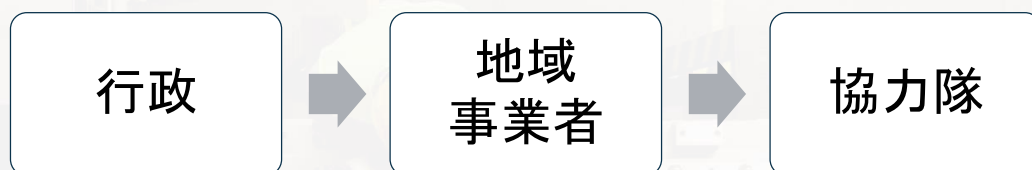
- 連携の取れそうなチームとしての採用
- 仲間同士で話し合える環境づくり

地域事業者とのコミュニケーション

- 移住者への協力支援の実施



【ポイント1】 行政の受入れ体制の整備



既存の地域事業者が協力隊と連携することで、以下のようなメリットが生じる

1. 行政からの指示命令系統より、自由な動きが取りやすくなる
2. スピード感のある事業展開が可能
3. 卒隊後の生業づくりの可能性が広がる

条件 1 : 行政と地域事業者間の信頼関係が必須
 条件 2 : 行政・地域事業者の協力隊制度理解
 条件 3 : 地域事業者と協力隊との良好な関係性

【ポイント1】 行政の受入れ体制の整備

会計年度任用職員

メリット

給与として報酬をもらえる
役場職員と接点が多い
年末調整などをしてもらえる
やっていることが見えやすい

デメリット

行政制度や職場ルールの理解が必要
行政予算の仕組みの理解が必要
活動などに職場の承認が必要
副業可でも時間は少ない

業務委託型

ある程度自由な活動が可能
スピード感のある事業展開
自分の事業と並行できる

委託金は全て所得になる
役場職員と接点が少ない
自分から企画提案できる能力が必要
各自で確定申告など事務処理が必要
報告責任が必須
やっていることが見えづらい

【ポイント2】 行政の入り口設計の強化

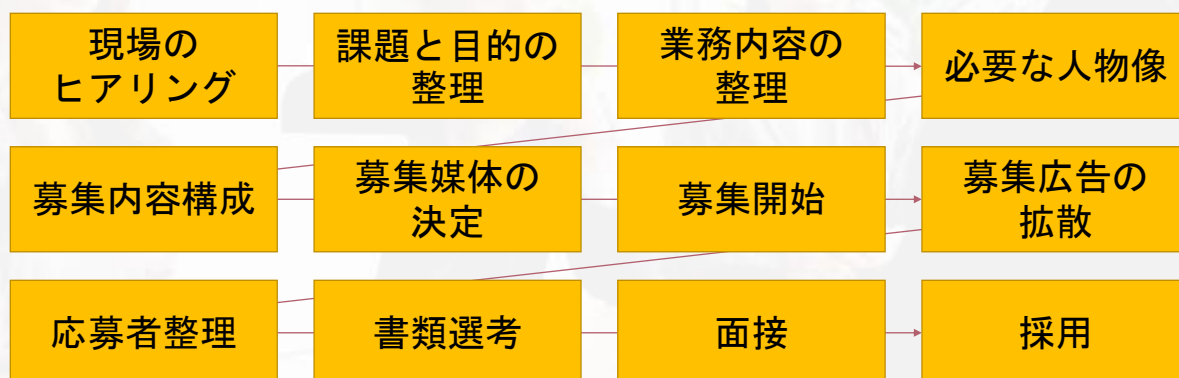
行政担当者の課題感

1. 協力隊制度の理解
2. 目的や業務内容の設定
3. 求める人物像の設定
4. 活動経費の使い方
5. 協力隊とのコミュニケーション
6. 地域との関係



【ポイント2】 入り口設計の強化

入り口設計とは何か？



【ポイント2】 入り口設計の強化

入り口設計とは何か？

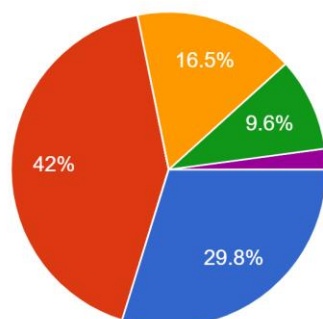


【ポイント3】 コミュニケーションの方法

2022年長野県地域おこし協力隊アンケート（速報値）より
回答対象：任期1～3年目の県内協力隊員

日頃、行政職員に対して、自分からコミュニケーションを積極的にとろうとしていますか。

188件の回答



- 1：積極的に取り組んでいる
- 2：ある程度取り組んでいる
- 3：どちらとも言えない
- 4：あまり取り組んでいない
- 5：ほとんど取り組んでいない

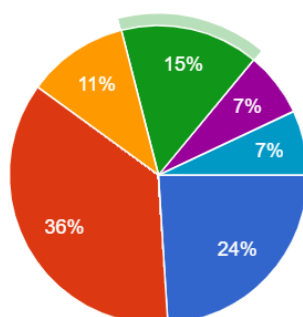
$$1 + 2 \\ 29.8\% + 42\% = 71.8\%$$

【ポイント3】 コミュニケーションの方法

2022年長野県地域おこし協力隊アンケート結果（速報値）より
回答対象：任期2～3年目の県内協力隊員

"現時点で"「あなたが隊員としてやりたいこと」と「行政（市町村）が地域おこし協力隊（あなた）に期待すること」は一致していますか。

100件の回答



- 1：ほぼ一致している
- 2：ある程度一致している
- 3：少し一致している
- 4：どちらとも言えない
- 5：あまり一致していない
- 6：ほとんど一致していない

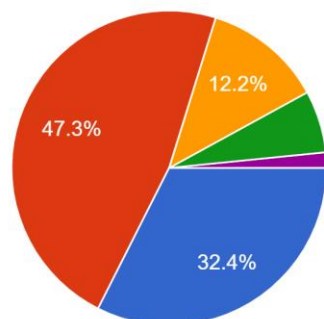
$$1 + 2 \\ 24\% + 36\% = 60\%$$

【ポイント3】 コミュニケーションの方法

2022年長野県地域おこし協力隊アンケート（速報値）より
回答対象：任期1～3年目の県内協力隊員

日頃、地域住民や関係者に対して、自分からコミュニケーションを積極的にとろうとしていますか。

188件の回答



- 1：積極的に取り組んでいる
- 2：ある程度取り組んでいる
- 3：どちらとも言えない
- 4：あまり取り組んでいない
- 5：ほとんど取り組んでいない

1 + 2

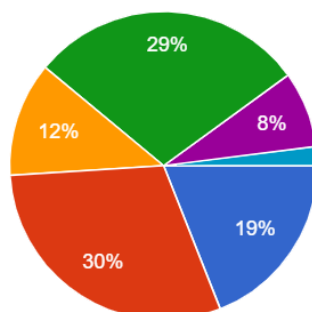
32.4% + 47.3% = 79.7%

【ポイント3】 コミュニケーションの方法

2022年長野県地域おこし協力隊アンケート（速報値）より
回答対象：任期2～3年目の県内協力隊員

"現時点で"「あなたが隊員としてやりたいこと」と「地域住民/関係者が地域おこし協力隊（あなた）に期待すること」は一致していますか。

100件の回答



- 1：ほぼ一致している
- 2：ある程度一致している
- 3：少し一致している
- 4：どちらとも言えない
- 5：あまり一致していない
- 6：ほとんど一致していない

1 + 2

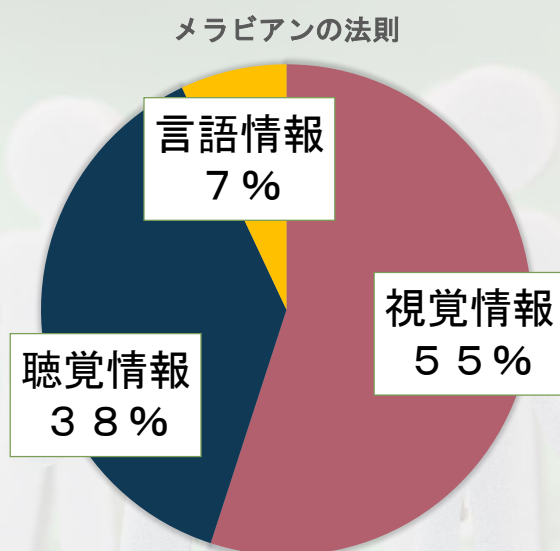
19% + 30% = 49%

【ポイント3】 コミュニケーションの方法

コミュニケーションとは何ですか？
と聞かれて何をイメージしますか？

コミュニケーションには
大きく分けて2つあります。

言語情報 . . . 7 %
非言語情報 . . . 93 %



【ポイント3】 コミュニケーションの方法

会話量だけではコミュニケーションをとれているとは言えない

協力隊員の声

- ・採用時と着任後で言っていることが変わってしまった
- ・人足として使われているようにしか思えない
- ・行政のビジョンが曖昧
- ・行政の考えや要望がわからない
- ・サポートが全くない
- ・放置されている
- ・募集内容とイメージが違っていた
- ・先の見えない業務で不安を抱えている

【ポイント3】 コミュニケーションの方法

うまくコミュニケーションが取れている市町村の共通点

協力隊員の声

- ・ 親身に相談に乗ってもらっている
- ・ 協力隊同士で相談できる環境がある
- ・ 予算のことなど詳しく教えてもらった
- ・ 必要だと思う研修などに参加させてもらっている

行政担当者の声

- ・ 人生をかけて来てくれているのでできる限りのことをしたい
- ・ 行政職員ではできないことをしてくれているので感謝している
- ・ 孤立させないように必要な人をつないでいる



まとめ

良い流れができ始めている市町村に共通するポイント

【ポイントまとめ】

1. 行政の受け入れ態勢整備
 - ・ 行政では難しいことを外部に委託するという選択肢
 - ・ 行政と地域が連携していると協力隊が活動しやすい
 - ・ 採用形態は行政も隊員もある程度理解が必要
2. 募集段階の入り口設計強化
 - ・ ビジョンの無い採用がミスマッチの原因をつくり出す
 - ・ 設計～募集について外部の手を借りることも選択肢
 - ・ 担当者自身が応募したくなるような募集案件をつくる
3. コミュニケーションの方法
 - ・ 言葉だけのやり取りではなく、相手を理解しようという姿勢
 - ・ 協力隊も担当者も感情のある人間であるという理解
 - ・ できないことを曖昧なままにせず、共通理解を深める

ご清聴ありがとうございました
アンケートへのご協力をお願いします

